

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

-お知らせ-

来る十二月三十一日の大晦日に、毎年恒例の「除夜会」を御本寺、仁叟寺にて行います。一年の厄を落とし福を呼ぶこの行事に是非お越し下さい。

平成16年

龍源寺年間行事予定

- | | |
|-------------|-------------|
| 1/1 | 年頭祈禱 |
| 1/3~1/4 | 年始挨拶 |
| ※2/3 | 大節分会 |
| ※2/15 | 涅槃会 |
| ※3/14 | 大般若・大施食会 |
| ※3月中旬 | 筆供養法要 |
| 3/18~3/24 | 春彼岸会 |
| ※4/8 | 花祭り |
| 4/29 | |
| | 大施食会蚕影山例祭法要 |
| 7/12~7/16 | |
| | 県外檀信徒棚経 |
| ※7/23~7/24 | |
| | 子ども禅の集い |
| 8/13~8/16 | 盂蘭盆会 |
| 9/20~9/26 | 秋彼岸会 |
| ※12/8 | 成道会 |
| ※12/31 | 除夜祭 |
| ※毎週土・日曜日 | |
| | 書道教室 |
| ※毎週水曜日 | |
| | 定期坐禅会 |
| ※隔週水曜日 | |
| | 梅花講稽古・華道教室 |
| ※は本寺仁叟寺にて開催 | |

てつどう

長男『哲道』誕生

去る七月二十六日午前6時、藤沢おおは市大庭の吉田クリニックにて当家の長男が誕生いたしました。予定日より二週間早い誕生でしたが、誕生時の体重は3,805グラムと大きく関係者を驚かせました。

命名は「哲道（てつどう）」哲学的な思考ができる人間になって欲しいという意味合いを込めて名付けました。

母子共に健康で、当寺には一ヶ月検診が終了した後に帰にぎって参りました。静かだった山寺も賑やかになるかと思われま。



↑長男「哲道」

ちゃよ

お茶呼び

ここ多胡地区には、以前から「お茶呼び」と呼ばれる行事があります。長子が誕生した家ひろに

近所の方々が集まり、披露を兼ね祝福をするという伝統行事です。元々、女性が中心ふるまの行事でお茶やお菓子を振舞うことから、お茶呼びという名前になったと言われております。

当寺では総代役員さんへの

披露も兼ね、九月十七日（金）の大安の日に行いました。ご参

りんぼはん集頂きました隣保班の皆様はじめ総代人役員さんにはお世話になりました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



↑お茶呼び風景

く り

本堂庫裏床下工事報告

本堂及び庫裏の一部の床下の改修工事が九月七日～九日に掛けて行われました。工事を担当した大工さんは当寺檀信徒でもある加部元信氏。本堂及び庫裏の建立も手がけており、しっかりとした腕前の棟梁さんです。

本堂は施食棚の安置している床を補強。以前は動くだけで音がしましたが、改善されました。庫裏ではシロアリの被害で老朽化した床下の張替を行いました。



↑工事を担当した当寺檀信徒
加部元信大工さん



↑シロアリに喰われた床下の木材

ほか、防湿防虫対策として御本寺、仁叟寺よりいただいた木炭を床下に敷き詰めました。奈良京都の神社仏閣では、ほとんどが床下に木炭を敷き詰めてあるそうです。

尚、今回の工事の浄財は今年の新盆檀信徒諸家からいただいた寄付金を使わせていただきましたこと、ここに報告申し上げます。



龍源寺探索-8-

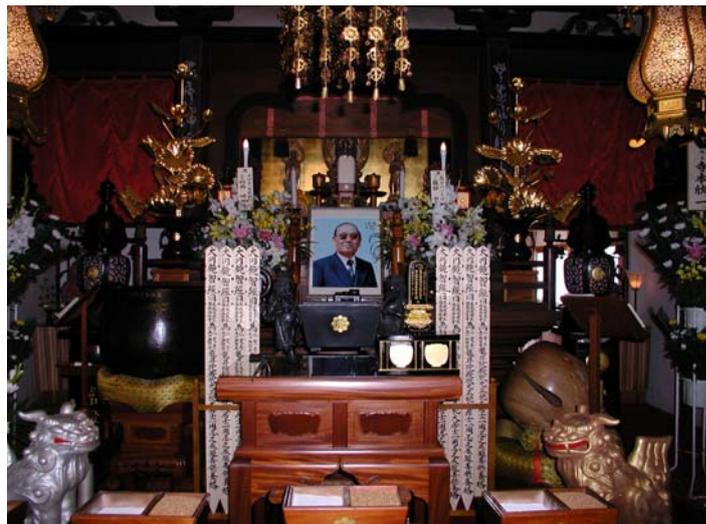


↑二十夜坐像

今回は、参道の六地藏様の隣りに祀られている二十夜様石像です。以前この欄で紹介した二十夜様は掛軸でしたが、今回は石像です。昭和40年代まで二十夜講がここ多胡地区では続いておりました。二十夜様信仰（二十夜講）は、江戸期に盛んになった女性専用の講です。女性の数少ない娯楽の一つということで、その集落の女性が毎月二十二日の夜に各家持ち廻りで集まり夜通し話し合ったそうです。足をあげ、手を頬に当て思惟している特徴ある仏様です。本堂にある掛軸と比較してお参り下さい。

仁叟寺通信-10-

去る九月十日（金）、仁叟寺の最高顧問檀家であり再中興開基の故寺本欣正翁（戒名、龍昇院殿欣光正悦大居士位）の正当の一周忌の法要しょうごんが仁叟寺本堂に於いて荘厳に執り行われました。中曽根康弘元総理大臣はじめ小寺群馬県知事、中曽根弘文参議院議員など政財界の重鎮じゅうちんはじめ350名を超える多くの方々が参列。改めてサンコー会長、寺本翁の生前の徳の大きさが理解できました。尚、会長亡き後は喪主である寺本欣一社長が跡を継ぎ精進しております。



↑ 仁叟寺本堂に掲げられた会長の遺影

街路灯の設置



↑ 新たに設置された二基の街路灯

既にご存知の方も多いかと思われませんが、当寺新墓地脇の坂道に二基の街路灯を設置いたしました。施工業者は富岡市の光システムズ（武石広光代表）に依頼。

夜間に墓所にお参りに来る方は多くはないと思いますが、駐車場から寺までが真っ暗だという声や防犯上の理由もあり設置いたしました。また、幸いに新墓地へ電気を通すための電柱があり、それを活用いたしました。

寺域の環境整備は寺院及び総代役員会などが中心となり行いますが、檀信徒の皆さんの声も重要な意見と

なります。是非とも、忌憚きたんないご意見をお寄せいただければと思っております。

吉井町仏教会役員を拝命



↑ 吉井町仏教会総会風景

去る七月二日、吉井町仏教会（会長 恩行寺竹村興肇住職）の総会が仁叟寺で開催されました。その席上、同会の新規約などが採択され、その規約に則り新役員が任命されました。不肖ながら、この度、龍源寺住職として会計役員を仰せつかりました。

吉井町仏教会は吉井町にある寺院の組織で宗派問わず二十二ヶ寺が加盟しております。毎年春に行われている戦没者慰霊祭かぶらがわ（今年から追悼式に変更）や夏に鎭川で行われる燈籠流しとうろうなどの行事を行っております。

年齢が一番若い会員ではありますが、今回も「任に当たって他に譲り難し」の精神で精進していこうと思っております。

龍源寺案内書が完成

龍源寺の主なほとけさま

- 龍源寺御本尊 (本尊) 釈迦如来
- 奥陣持室、室内安全 (本尊) 善影山大権現
- 魚介懸垂、海龍尼像 (境内) 魚籃觀世音菩薩

御本尊 釈迦如来

法隆三百六十年
曹洞宗
慈雲山松田院
龍源寺

〒305-0855 茨城県水戸市大宮五丁目七番七号

電話/FAX: 027-387-5859 e-mail: ryugenji@alpha.ocn.ne.jp
URL: http://www.citydo.com/prf/gunma/guide/sag/220000334.html

←右 表表紙 左 裏表紙

当寺の案内書（パンフレット）が完成いたしました。両面カラー印刷でサイズはA4の二つ折りで、寺歴や境内図、地図などが豊富な写真やイラストと共に記載されております。当寺のイメージとして背景は竹色の緑を基調色として使用しております。

レイアウト及び印刷には住職友人でもある栗原俊文氏が代表を務める前橋市のh.a.p.s.（ハプス）に依頼いたしました。

←内頁 寺歴や境内図など

当寺参拝者並びに法事や坐禅会などの機会に配布していこうと考えております。ご参拝の折にはお気軽に声をお掛け下さい。また、当案内書を希望する方、並びに事業所などに置きたいと思う方などおられましたら、当寺までご一報の程、お願い申し上げます。

龍源寺の正式名称は、慈雲山龍田院松田院。古伝によると、当寺は尊徳尊永大和尚創建（生没年不明）に由来し、五代目の善観尊大和尚代に山開けのために慈雲山麓に遷座した。その後、正保三年（1648年）、当地地主の徳本阿六宗門公の寄進により、仁徳寺九十九日講堂跡に龍源寺と改称して開山。

明治一六年（1893年）、二二三山理善大徳大和尚代に火災に遭害が焼失。翌年に檀越の協力にて再建。地下金庫等より、同寺大尊像等に安置したる仏像を拝迎し、これを本尊とした。昭和二十八年（1953年）、二十八世大徳阿闍梨人知代代（男・仁徳寺宗徳）に遷座。長命寺修移。昭和五十年（1975年）、二十九世大徳阿闍梨人知代代（男・仁徳寺住持）に本尊・遷座の修移。山門・長屋門などの新築及び修繕の事業も行った。

境内には三十世住持時代に善影山大権現を境内から本堂に修移。善影山大権現は当寺の縁起的存在で、奥陣に功徳のある仏様としてよく知られている。魚介懸垂の胎地も境内に安置した。

龍源寺公園墓地分譲

春は花 夏はトナリ 秋は月 冬は雪で 涼しかりけり (道元)

龍源寺上州の人知代、知代代、自然から龍源寺公園墓地、現在分譲中です。
1. 龍源寺 再建から建て直し「アサヒ」の境内に敷地を譲り受けました。

墓地面積	宗代使用料
6R 6尺 (181.8cm×181.8cm)	200,000円
6R 8尺 (181.8cm×272.7cm)	250,000円
9R 9尺 (272.7cm×272.7cm)	300,000円

※ それ以上の宗代使用料となります。必要時に相談ください。

30日住職 龍源寺 住持 栗原俊文氏
30日住職 龍源寺 住持 栗原俊文氏
30日住職 龍源寺 住持 栗原俊文氏

行雲流水(編集後記)

編集人 住職 渡辺龍道

龍源寺報『山雲水月』秋号をお届けいたしました。今号で通算11号目を迎えます。記事中でも書きましたが、忌憚のないご意見ご要望などをお待ちしております。

また、正月一月一日の元旦には恒例の年賀受があります。一年の初めに当たり、当寺のご本尊様にご挨拶をして頂きたく思います。

さて、当寺も長男「哲道」の誕生で賑やかになっております。まだ生後二ヶ月

ほどですが、その成長ぶりには毎日驚かされております。隣保班の皆様方はじめ総代人や役員さんご臨席のもと「お茶呼び」も行わせて頂きました。縁のある方々に温かく見守って頂き、ご指導ご鞭撻を賜りたく存じます。

また私事ながら恐縮ですが、誕生祝を多数頂戴いたしました。家内の実家、佐藤家におかれましても、里帰り中は色々ご迷惑をお掛けいたしました。改めまして厚く御礼を申し上げます。

